



▶ 学年 中学校 第1学年

▶ 単元 Winter Vacation

言語活動の指導例については、国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(中学校 外国語)」pp.54-55をご参照ください。

POINT
01

対話的な学びを引き出す教師の仕掛け

本単元は過去の出来事について説明したり、たずねたりすること(やり取り)ができることをねらいとしている。そこで、生徒が新出の文法事項である動詞の過去形を意識することができるよう、「冬休みの思い出」という話題を設定した。また、単元のはじめに「ALTと冬休みの思い出についてやり取りできる」というゴールを設定することで、生徒が単元を通して「目的や場面、状況など」を捉えることができるようにした。やり取りにおいては、ある程度の即興性が求められる。その中で対話を促すことができるよう、コミュニケーションの見通しをもつ段階の活動では、やり取りで話す内容や順序を考える時間は短時間とし、生徒はメモを取る程度とした。

POINT
02

対話的な学びの様子

◎ 自分の考えを整理した後に、冬休みの思い出について友達とやり取りする。

JTE: Let's talk about your winter vacation and give feedback to your partner. ※JTE = 日本人英語教師

生徒B: What did you do during winter vacation?

生徒A: I...went to my grandfather's house. ※「...」は言い淀みを表す

I eat...おすしを食べたって言いたいんだけど、eatの過去形って何て言うんだっけ。

生徒B: eatの過去形はateだよ。

生徒A: OK! I ate sushi. It's delicious.

生徒B: Nice! What kind of sushi...did you eat?

生徒A: I...ate salmon, maguro and ika.

生徒B: あれ? salmonは英語だと思うけど、マグロとイカは日本語だよ。

生徒A: そうだね。それだと、ALTの先生に伝わらないね。英語では何て言えばいいのかな。

(二人でタブレットを用い、マグロがtuna、イカがsquidであることを確認した)

生徒B: じゃあ、もう一度聞いてみるね。What kind of sushi did you eat? 生徒Aがやり取りの前に書いたメモ

生徒A: I ate salmon, tuna and squid.

生徒B: OK! Very good!

生徒A: and...I went to a shrine with my family.

(机間指導の中で、生徒AとBのやり取りの様子を見ていたことを踏まえて)

JTE: ALTのことも考えて、英語を使っていましたね。二人とも、Good job!

次にまたやり取りする時には、今回気付いたことを生かしてみましょう。

◎ ペアを変えて、やり取りする。

生徒C: What did you do during winter vacation?

生徒A: I went to my grandfather's house.

生徒A: I ate sushi. I ate salmon, tuna and...squid.

生徒C: OH! You ate sushi. What is...squid?

生徒A: ...Squid is イカ in English.

(二人のやり取りは続く)

<MEMO>

1. grandfather's house
2. sushi
3. shrine, family

「授業改善グランドデザイン」との関連

やり取りにおいては、即興性を重視するため、発話内容のメモは必要最低限とすることで、生徒が話しながら表現を組み立てることができるようにし、生徒同士の学び合いにつなげる。

POINT
03

学びが深まった生徒の姿

生徒Aは生徒Bとの対話により、単元の最後にALTとやり取りすることを再確認し、マグロやイカを英語に修正しようとしていた。これは、生徒Aが外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせて、考えを再構築しようとしている姿である。2回目のやり取りにおいては、「I ate salmon, tuna and squid」の表現を付け加え、自分の英語表現を言語面・内容面において改善することができた。このように、やり取りにおいては、まずは話してみて、自分の改善点に気づき、また話すことを繰り返す中で、表現をよりよくしていくことが大切である。